

■（２６）顔写真と名前、住所の重み

朝日新聞の東京本社発行版（東日本地域向け）の１ページが連日、亡くなった方々の名前と住所で埋まる。東日本大震災で、警察が死亡を確認して発表した人の情報で、１日で６００人前後。その多さに圧倒される。２５日までに掲載したのは約２５００人。未発表を含めれば犠牲者は１万人を超える。連絡の取れない人はその数倍になる大災害だ。

大津波に襲われた三陸海岸沿いの地域では当初、電話など通信手段が途絶えた。道路が寸断されて、孤立した地区が続出した。新聞として何かできないか。ひとつの答えが前回も紹介した「いま伝えたい 被災者の声」欄。被災者の誰かに伝えたい言葉を、名前と顔写真、住所とともに載せている。連日、多くの人の言葉が並ぶ。きっと、その記事を見て、知人の無事を知る人がいるだろう。紙面の元気な表情や言葉に、ほかの被災者も元気をもらえるかもしれない。NHKや民放のテレビも似たようなコーナーを始めて来た。

顔写真と名前と言えど卒業アルバム。そこには子どもらの生き様がこもる。被災地の卒業式では、子どもらが復興に向けた決意を語っていた。そのニュースに勇気づけられる（山）